

随想プラザ 頑張れ！ミドル諸君（２） キャリア自主管理の時代

Kawakita, Takashi / 川喜多, 喬

(出版者 / Publisher)

労務行政研究所

(雑誌名 / Journal or Publication Title)

労政時報 / 労政時報

(号 / Number)

3299

(開始ページ / Start Page)

52

(終了ページ / End Page)

53

(発行年 / Year)

1997-04

随想 プラザ

頑張れ！ ミドル諸君(2)

キャリア自主管理の時代



川喜多 喬

…かわきた・たかし…法政大学経営学部教授

自分を売る時代

「場さえ与えてくれれば能力が発揮できるのに」と嘆く人がいる。しかし、自分の能力を発揮できる場を自分に与えさせるのも能力のうちの一つである。趣味教養の能力はともかく、社内外の労働市場で自分を商品と考え、自分の市場価値を高める必要がある。市場では「能力は他人が決めるもの」である。自分であるとおつづやいていてもしょうがない。だから、○自分の上司や会社あるいは他の会社を、自分という商品のお客様と考えよ。○マーケティングを研究せよ。商品開発と市場開発はセットだ。○リストラ、減量経営の動きを、恨めしげに眺めたり、酒を飲んでブツブツ言っているも仕方がない。よりよい仕事をせよ。大事な仕事は買って出よ。○自分がいなくては同僚は、職場は、会社は困るはずだと思うな。近所の墓地に出掛けてみよ、自分がいなくなれば世の中はいったいどうなるのだろうと、かつて心配していた人がいっぱいだ。○自分を社内外のキーパーソンに目立つようにせよ。社内報への投稿でもいい、学会発表でもいい。常に「愛社精神」を示せ（示しているふりぐらいしろ）。○自分のアイデアを売り込め。管理職社員研修は予習をして臨め。俺が俺がと目立つ必要はない。同僚をもり立てることで自分が目立つこともある。○笑顔を守れ。根暗と言われたら損だ。○同僚や部下、上司に役に立つ特別の情報を自分は提供しているか。独自の情報源を持っているか。○自分がきちんとした自己啓発をしていることを上司は知っているか。上長との面接制度はどうせ形式に流れるのだと思わず、予習をしろ。話し方の教室に通

うのもいい。○社内報の編集部と仲よしになれ。頼まれたらいい文章を寄稿せよ。○能力主義、能力主義と言うが、しばしば測定不可能な能力なるものよりも、見かけでもいい、態度、努力が評価されることが多いことを決して忘れるな。

自分の把握と表現の訓練を

20代、30代にもなって「自分探し」だなどと、最近の学生や若者は幼い、甘ったれた態度だ、と言いたくなる気持ちは分かる。しかし、中堅社員、ミドル社員もまず、自分が本当は何がしたいかを見つめることは必要だ。会社の事業計画だってビジョン、理念、目標がまず最初だ。「どこへ行きたいのか分かっていなくとも、必ずどこかへ行ける」……それも確かだ。が、着いたところは地獄であり得る。青臭い議論だと思わず。○自分のいちばん好きなことをはっきりさせろ。○一度、就職戦線に立つ学生に戻ったかのように、適職テストに参加してみよう。○出世などどうでもいい、その日その日をまじめに生きればそれでいい……というのはホンネだろうか？ 心の豊かさがあればカネなどいい、というのはホンネだろうか、美辞麗句に流れるのは評論家や知識人に任せているがいい。○自分の夢の実現に障害は何か、はっきりさせろ。権力、地位、カネ……であることが多いことは、この世界では残念ながら紛れもない事実だ。「おれはカネのことを言っているのではない」と言う人が言いたいことは結局カネであることがある。○老後はどんなところに住みたいか、何をしていたいか。本当にノンビリしていたいか、それとも働き続けたいか。老人ホームを訪ねてみよう。公共職業安定所を訪れて高齢者へ

の求職がどれぐらいあるか調べてみよう。数年前に引退した昔の上司を訪ねてみよう。○ライバルとの競争で成功をねらうあまり、大事な人生の目標をどこかへ置いていってしまっていないか。○両親、配偶者、子供、同僚、友人に、自分の評価を虚心坦懐きょしんたんかいに聞いたことはあるか。答えをそのまま受け入れないにしても。○自分の人生を勝手に決めた建前としての目標に犠牲にされていないか。○しかし、キャリア設計だと凝りに凝ってあまり先まで計画してしまうな。5年後には自分は別人になっているかもしれない。○子供のころの日記を読み返そう、中学時代、高校時代の友人に会って昔話をしよう。○民間人材ビジネスを訪れてキャリアカウンセラーと話してみよう。○キャリア設計の講習会に出よう。できれば社外のものを選ぼう。会社のもものは社外排出をねらったものばかりだ。○説得の技術、スピーチの技術、そしてビジネスマナーの講習会などに自費で出掛けてみよう。自分をうまく表現できずに損をしている人は多い。

人脈こそ、キャリア自主管理の支持母体

人生80年。同じ会社に70歳までいられるはずは毛頭ない。社外に押し出される前に自分で独立するのもいい。自分を買ってくれる別の会社を見つけるのもいい。しかし、ベンチャーブームにうかうかと乗ってはいけない。転職ブームにおぼれてはいけない。サラリーマン自立論議に感情だけで乗ってはいけない。その力もないのに自分は独立してもやっていけると考えてはいけない。○自分の肩書き目当てでヨイショしてくれる人ばかりの人脈をいくらもっていてもそれは本物ではない。○友人知人のファイルを作れ。重要度に応じて手紙の量を増やせ。○他の部局に、関連会社に、パーツメーカーに、下請けに友人を持て。○直属の部下だけでなく若者に友人をもて。○上司と一緒に出張する機会を増やせ。役職者の名前と経歴をすべて覚えろ。○噂のチャンネルを知っておけ、チェックせよ、メンテナンスを忘れるな。○名刺を集めよ、名刺を配れ、礼状を欠かすな、素敵な年賀状を送

れ。○自分の趣味が個展を開くまでになったら、トップを招待せよ。○自分より仕事ができる人とちゃんとつながりを持っているか、それとも「同病あい哀れむ」仲間ばかりと付き合っているか。○昼飯を、夕飯をいつもの仲間以外に広げて食べよう。○いざというときに相談できる社外の人々や各種機関のリストを持っているか。○人脈からのインプットの天才となるだけではだめ。アウトプットでも天才に。

啓発は必要、しかし資格遊びはするな

自己啓発ブームだ。しかし、うかうかと乗って教育ビジネスを肥やすだけではダメ。資格魔になりたいのなら別だが。○いい本を読もう。○若者はものを知らないといばかり言っていないで、流行語を一日一つ覚えよう。○転職するつもりがなくても履歴書を書いておけ。また今までの自己申告書のコピーはそろっているか、それを子細しさいにチェックして自分に足りない技能を調べろ。○突然、クビになったと仮定して一日考えてみよう、職探しに役立つはずの技能とは何か。○突然、経営危機の子会社の社長を命じられたと仮定して一日考えてみよう。財務の知識、リストラの知識、シュンとしている社員のモラルアップの知識、荒れる労働組合との交渉術、それを一人で担える技能があるか。○社会人向け大学、大学院に通ってみよう。息子に年100万出すより自分に年100万円出してみよう。○逆境に耐えた人の伝記をしっかりと読もう。中年になって、高齢になって立志した人の伝記を読もう。ギボンが「ローマ帝国衰亡史」を書いたのは、ダーウィンが「種の起源」を書いたのは、スタインベックが「エデンの東」を、ルソーが「エミール」を書いたのはいずれも50歳。フォードがT型モデルを発表したのも50歳。

川喜多喬プロフィール

1948年生まれ。76年東京大学大学院博士課程修了。茨城大学、東京外国語大学助教授を経て90年より現職。日本労働研究機構特別研究員、都立労働研究所研究員を兼務。法政大学大学院で社会人対象に講義。